

事業所における自己評価総括表

公表			
○事業所名	ドリームつばさ (児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	令和 7年 1月 15日	～	令和 7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27名	(回答者数) 23名
○従業者評価実施期間	令和 7年 1月 15日	～	令和 7年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 2月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)を作成している。	細かなアセスメントを行うことで、お子さんの強みや弱みを分析し、どこでつまづいているのを明確にし支援計画の目標を設定している。	細かなアセスメントをとり、保育園や幼稚園とも情報交換を行い、支援内容を検討していく。また、保護者の要望も聞き取り、作成していく。
2	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができています。	送迎時や連絡ノートでやりとりをしたうえで、必要に応じて直接お話をする機会を設けている。また、活動の様子をお伝えすることで、お子さんの発達について共通理解を図れるようにしている。	継続して日々の連絡を積み重ね、保護者の方と共通理解を図っていく。
3	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援している。	昨年度より茶話会のテーマをこまかく設定し、少人数での会を行っている。全日程を事前に知らせることで予定を立てやすくして参加に繋げている。	内容やテーマなどを、通っているお子さんのニーズに合わせて決めていく。また、開催時期・日程を知らせる時期等についても検討していく。
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がない。	年齢や特性を考慮し、交流することが難しかった。	お子さんの年齢や特性等を考慮しながら、必要に応じて交流する機会を検討していきたい。
2	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	家庭での悩みや困りにアドバイスをしたり、就学前説明会を開催し情報を提供する場を設けることができた。支援プログラムを立てるまでに至っていない。	保護者のニーズに合わせて、必要に応じて行っていく。
3			

事業所における自己評価総括表			
公表			
○事業所名	ドリームつばさ (放課後等デイサービス)		
○保護者評価実施期間	令和 7年 1月 15日		～ 令和 7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数) 1名
○従業者評価実施期間	令和 7年 1月 15日		～ 令和 7年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 2月 14日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援を提供している。	お子さんに合わせた教材を発達に合わせて作成し、専門的な支援を提供している。必要に応じて家庭でも取り組める内容のものを提案し実践できるようにしている。	アセスメントを行い強みや弱みを把握し、お子さんの発達に応じて必要な専門的支援を実施していく。
2	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応している。	保護者からの要望やニーズによってアドバイスをすると共に、家庭でできる教材や発音についてのプリントなどを用意している。また、職員間で申し送りの際に情報を共有している。	都度、相談や悩み等に助言を行い、保護者の思いに寄り添いながら支援を行っていく。
3	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	送迎時に様子や取り組みの状況についてこまめに情報共有を行っている。	保護者の思いに十分に寄り添いながら、お子さんの状況の共通理解を図っていく。ドリームでの様子の変化等がみられたときにも保護者との情報交換を行い、お子さんの様子について都度共有していけるようにしていく。
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	さらに充実を図るための取組等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がない。	下校時間の関係で、交流する機会をつくるのが難しかった。	長期休み等で、交流できる機会を検討する。
2	放課後デイ向けの父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会がない。また、家族への支援やきょうだいのイベントの開催もしていない。	茶話会を開催したが、放デイの在籍人数が1名だったため、放デイの保護者同士の交流を行う機会を持つことができなかった。	在籍人数に応じて、交流する機会を設けられるよう検討する。
3	(自立支援)協議会等へ積極的な参加。	参加はしているが、放デイ向けの内容のものへの参加頻度は少なかった。	必要に応じて参加をしていく。